

奈良県イノシシ第二種特定鳥獣管理計画

令和4年(2022年)度モニタリング報告書

奈良県食と農の振興部農業水産振興課鳥獣対策係
奈良県森林技術センター森林資源課

令和5年(2023年) 3月

計画履歴と内容および施策等

- 平成19年(2007年)度
(施策等)
 - ・狩猟免許取得促進の事業開始(以降、継続中)
- 平成20年(2008年)度
(施策等)
 - ・特定鳥獣保護管理計画策定のための生息状況、被害状況等大規模調査の実施
(平成20年～21年:2008年～2009年)
- 平成20年(2008年)12月26日 奈良県イノシシ特定鳥獣保護管理計画策定
(法律の制限の解除・緩和)
 - ・狩猟期間を11月15日～翌年2月15日であったものを同3月15日まで延長
(以降、継続中)
- 平成22年(2010年)4月1日 奈良県イノシシ特定鳥獣保護管理計画 第1回変更
 - ・区域を定めて、くくりわなの直径12cm制限を解除(以降、継続中)
- 平成24年(2012年)4月1日 奈良県イノシシ特定鳥獣保護管理計画(第2次)策定
- 平成26年(2014年)度
(施策等)
 - 環境省:日本全国をブロックに分けてのイノシシの個体数を推計(奈良県は近畿ブロック)
 - 奈良県:効率的な捕獲を推進するため、ICT技術を利用した捕獲器の有効活用を市町村とともに実施(以降、継続中)
- 平成27年(2015年)5月29日 奈良県イノシシ第二種特定鳥獣管理計画(第3次)策定
- 平成29年(2017年)4月1日 奈良県イノシシ第二種特定鳥獣管理計画(第4次)策定
- 令和4年(2022年)4月1日 奈良県イノシシ第二種特定鳥獣管理計画(第5次)策定

目 次

イノシシモニタリング調査の概要	1
1. 目撃効率(SPUE)・捕獲効率(CPUE)	2
2. 捕獲調査	5
3. 被害状況調査	6
4. 農業・林業集落アンケート調査(獣害アンケート調査)	9
5. 令和4年(2022年)度イノシシモニタリング調査結果報告まとめ	15
参考資料	
第一種銃猟用出猟カレンダー記入要領	16
わな猟用出猟カレンダー記入要領	17
狩猟鳥獣捕獲報告票(令和3年度)	18
農業用アンケート用紙(記入例)	19
林業用アンケート用紙(記入例)	20

イノシシモニタリング調査の概要

奈良県イノシシ第二種特定鳥獣管理計画(第5次)に基づき、同計画に掲載している下記の各種モニタリングを実施した。

1. 目撃効率(SPUE)・捕獲効率(CPUE)

目撃効率:イノシシ目撃数/捕獲努力量(イノシシ狩猟者延べ人数)で得られる数値 (銃猟)

捕獲効率:イノシシ捕獲数/捕獲努力量(イノシシ狩猟者延べ人数)で得られる数値 (銃猟)

イノシシ捕獲数/わな日数(わなの延べ設置日数)×30で得られる数値 (わな猟)

調査方法:奈良県に狩猟者登録をしている狩猟者に、出猟時のイノシシの目撃数、雌雄別の捕獲数、捕獲方法、イノシシ猟者数(捕獲努力量)について報告を依頼

調査様式:1)第1種銃猟用出猟カレンダー(シカ・イノシシ)【P.16】

2)わな猟用出猟カレンダー(シカ・イノシシ)【P.17】

2. 捕獲数調査

調査方法:狩猟捕獲 狩猟者からの捕獲報告を集計

調査様式 狩猟鳥獣捕獲報告票【P.18】

有害捕獲 市町村からの報告を集計

3. 被害状況調査

①農業被害

調査方法:市町村からの報告(金額、面積)を集計

農業水産振興課・農村振興課より、被害対策にかかる防護柵(侵入防止柵)の設置延長の集計

②林業被害報告

調査方法:市町村からの報告(面積)を集計

農業・林業集落アンケート調査において防護柵の設置効果を調査

4. 農業・林業集落アンケート調査(獣害アンケート調査)

調査方法:県内の農業または林業を営んでいる集落の代表者にアンケートを実施

対象集落:1,446集落

調査様式:1)農業用アンケート用紙【P.19】

2)林業用アンケート用紙【P.20】

1. 目撃効率 (SPUE)・捕獲効率 (CPUE)

調査概要

目撃効率とは、イノシシ目撃数÷捕獲努力量(イノシシ狩猟者延べ人数)で得られる数値、捕獲効率とは、イノシシ捕獲数÷捕獲努力量(イノシシ狩猟者延べ人数)により得られる数値であり、生息密度の動向の指標の一つである。イノシシの目撃数、イノシシ捕獲数、捕獲努力量(イノシシ狩猟者延べ人数)は、狩猟者アンケート調査※によるものである。

※狩猟者アンケート調査(出猟カレンダー)

奈良県で狩猟者登録を行った者全員に、毎年アンケート調査を行っている。内容は、狩猟期間にイノシシを捕獲することを目的に出猟した場合において、目撃数、捕獲数、捕獲方法、イノシシ狩猟者数(捕獲努力量)、わなの数についてである。

イノシシの目撃効率・捕獲効率 平成28年(2016年)度および令和3年(2021年)度(銃猟)

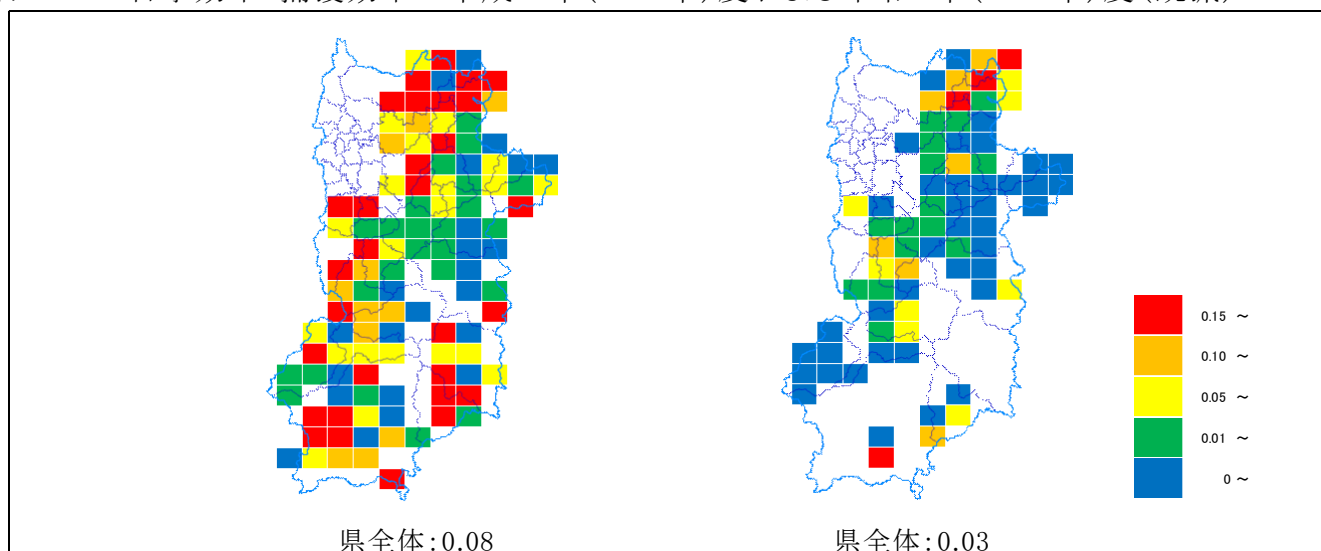


図1 銃猟の目撃効率

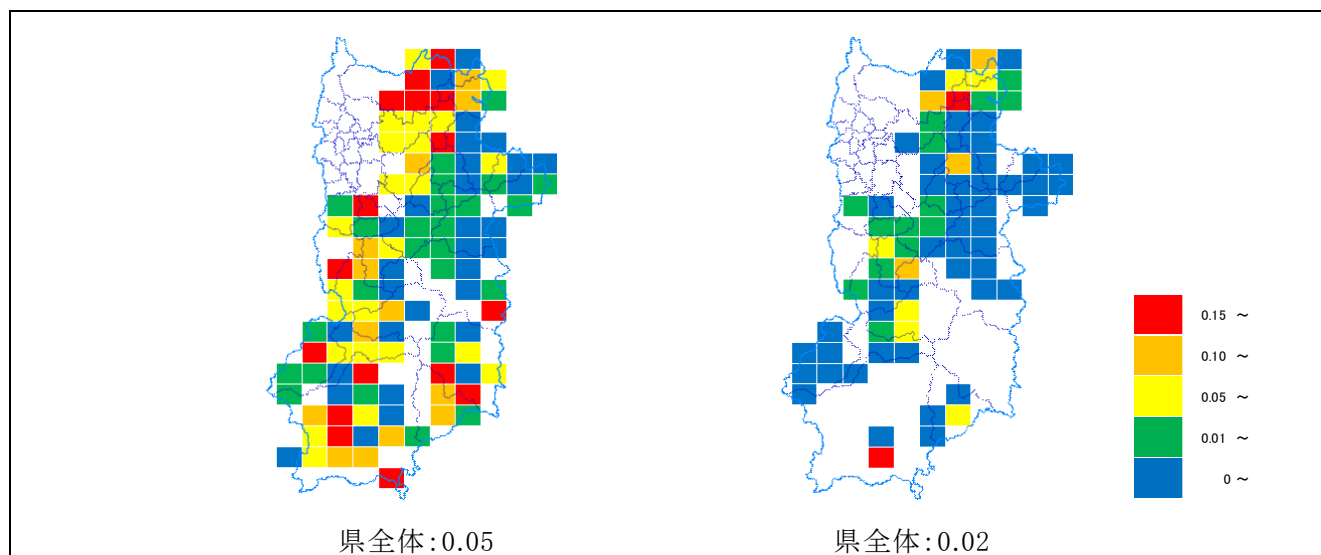


図2 銃猟の捕獲効率

青線囲みは旧市町村界、色を付けた1マスは5×5kmメッシュである。

なお、延べ出猟数が10人未満のところは除いている。

図1・図2に狩猟者アンケート調査による、平成28年(2016年)度および令和3年(2021年)度のイノシシの銃猟における目撃効率および捕獲効率を5×5kmメッシュで表現した高低分布を示した。平成28年(2016年)度ではいずれも、県北部から中部、南部にかけて高い地域が見られる。一方で県東部地域では低い傾向が見られる。令和3年(2021年)度では、平成28年(2016年)度と比較し県北東部を除き、いずれの数値も低下した。

また、平成28年(2016年)度と比較して令和3年(2021年)度では、県南東部、県南西部での出猟していない地域が拡大している。

イノシシの捕獲効率 平成28年(2016年)度および令和3年(2021年)度(わな猟)

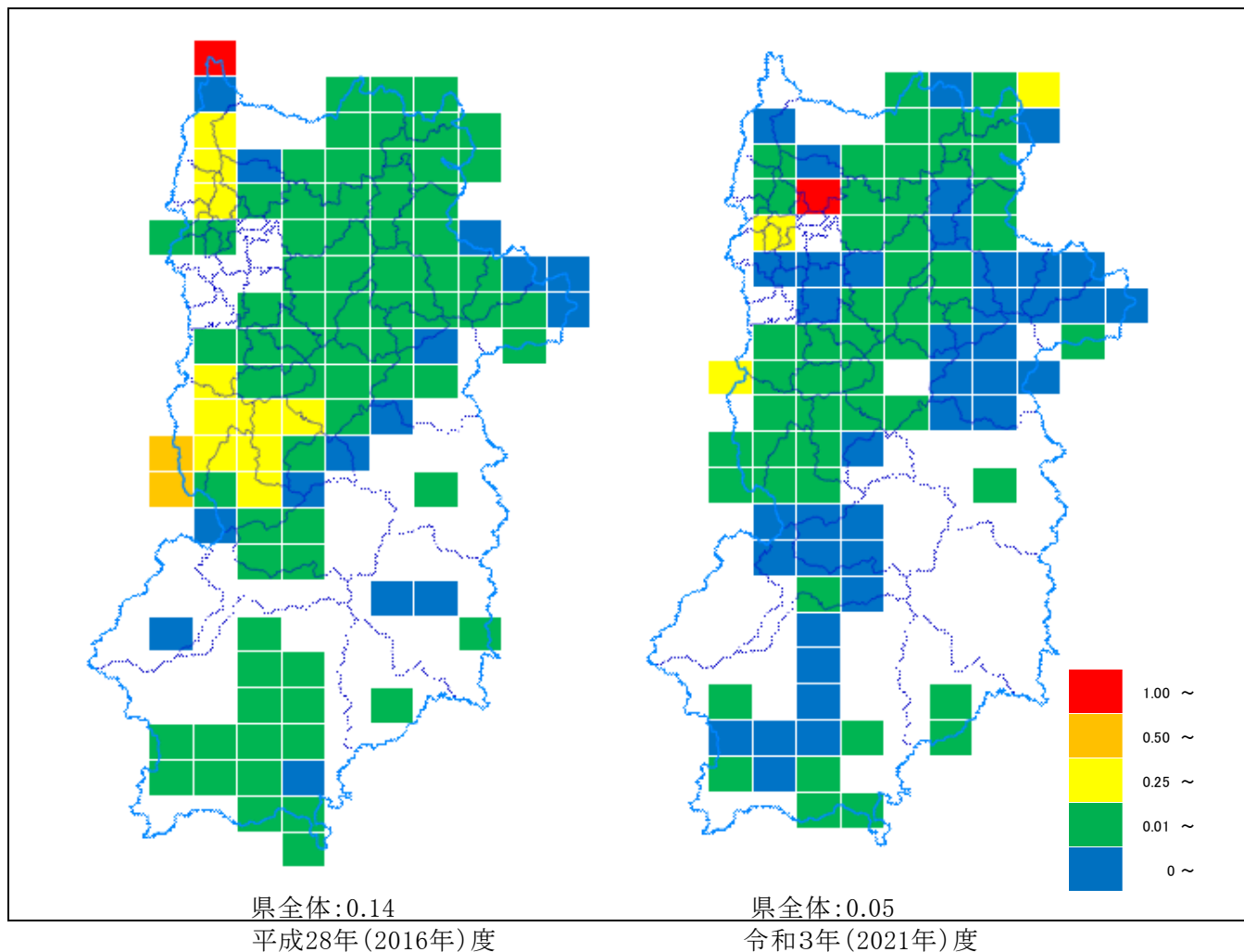


図3 わな猟の捕獲効率

注) わな猟の捕獲効率 = $\frac{\text{イノシシ捕獲数}}{\text{わな日数(わなの延べ設置日数)}} \times 30$
 (30は狩猟者1人が1日に稼働させてもよいわなの数。あるいは、わな1基を1ヶ月間設置した場合にも置き換えられる)

図3に狩猟者アンケート調査による、平成28年(2016年)度および令和3年(2021年)度のイノシシのわな猟の捕獲効率を5×5kmメッシュで表現した高低分布を示した。

平成28年(2016年)度では県北西部、県中部の一部に高い地域が見られる。これらの地域は銃猟においても目撃効率・捕獲効率が高い地域である。その一方で県東部、県南部などに低い地域が見られた。令和3年(2021年)度では、平成28年(2016年)度と比較し、捕獲効率が0.01未満の地域が県西部から県南部にかけて拡大しており全体的に捕獲効率が低下している。

また、平成28年(2016年)度と比較して令和3年(2021年)度では、出猟している地域が減少している。

イノシシの捕獲効率(わな種別)

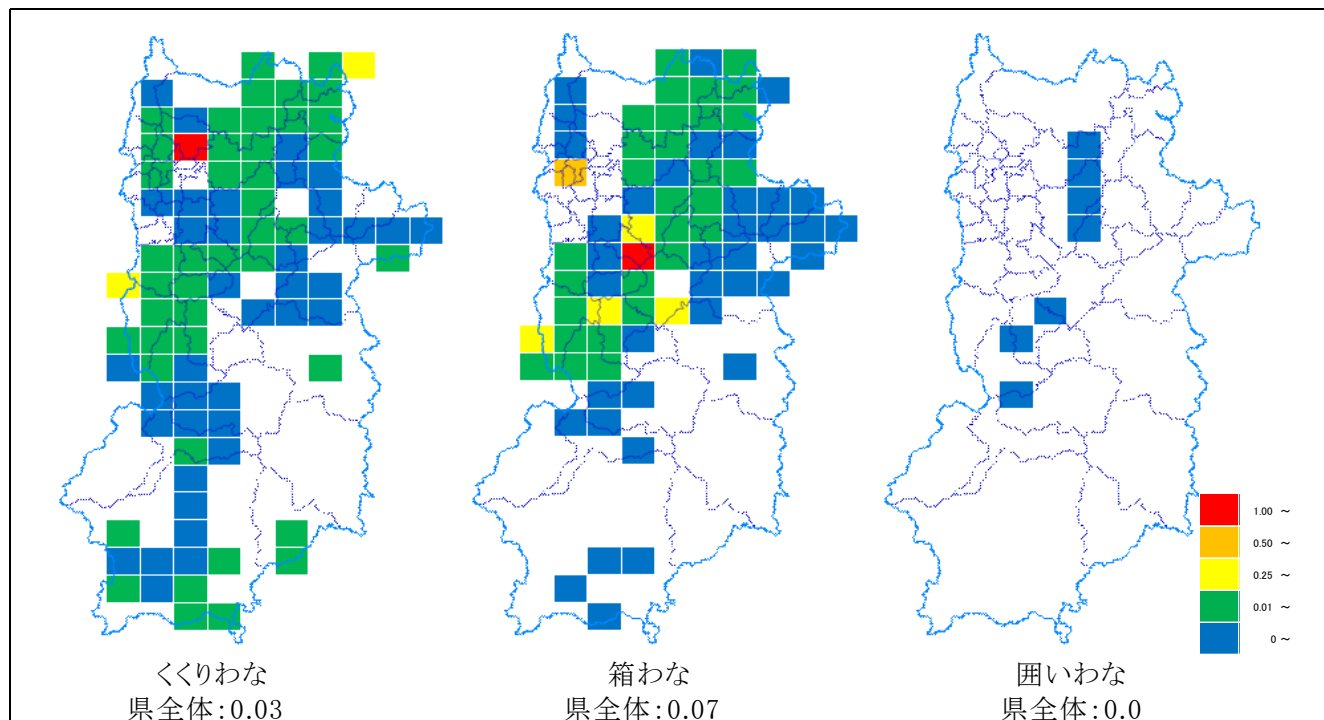


図4 令和3年(2021年)度のわな種別の捕獲効率

図4に狩猟者アンケート調査による、令和3年(2021年)度のイノシシのわな種別の捕獲効率を5×5kmメッシュで表現した高低分布を示した。

箱わなは県中部での捕獲効率が高い。県南部で低いのは、箱わながあまり用いられていないためである。

2. 捕獲数調査

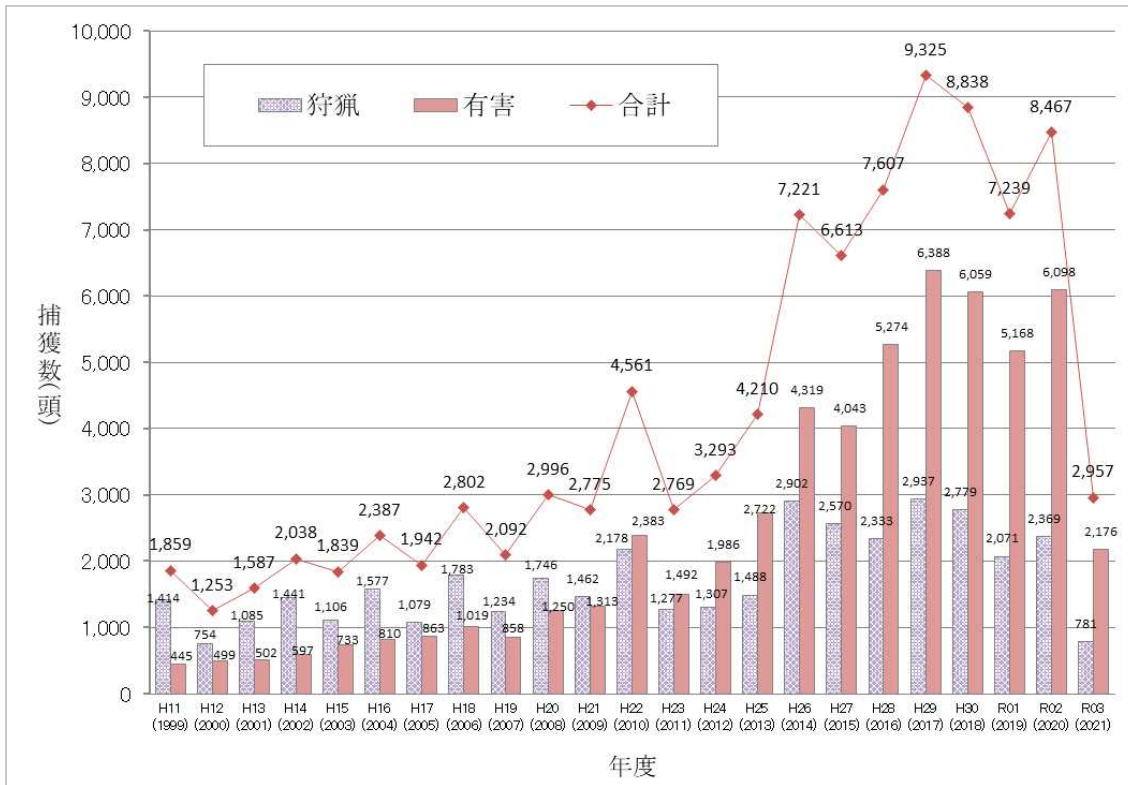


図5 イノシシの狩猟および有害捕獲数の変化

表1 市町村別捕獲数

	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
奈良市	320	503	389	381	534	899	756	891	879	752	754	765	256
大和高田市					3	1	3			1	3	1	
大和郡山市				6	5	46	25	72	136	108	84	95	21
天理市	99	143	117	164	203	403	364	483	536	433	418	358	114
橿原市				1	2	15	25	54	88	32	35	40	34
桜井市	122	153	102	185	247	396	367	540	440	530	368	554	185
五條市	275	409	128	378	903	1,380	1,791	1,797	2,342	2,380	1,743	2,158	603
御所市	79	125	58	83	89	286	192	234	300	314	204	233	55
生駒市	57	111	94	114	97	75	91	199	241	276	195	168	142
香芝市	21	13	19	55	61	54	105	71	70	53	50	101	35
葛城市	110	187	149	109	110	178	124	163	168	208	162	135	66
宇陀市	415	695	316	328	285	820	412	413	636	591	374	664	156
山添村	230	448	268	260	195	419	278	293	504	409	304	347	110
平群町	144	219	142	143	26	50	60	222	145	319	219	318	166
三郷町		59	14	72	26	49	21	76	50	46	43	65	35
斑鳩町				8	12	57	31	73	83	94	51	59	19
安堵町						2		2	2	2	2	1	
田原本町					1	5	3	2	1	1	1	2	1
曽爾村	2	6	80	20	23	89	33	17	45	51	19	17	1
御杖村	12	26	21	11	3	100	77	25	85	117	80	84	3
高取町	17	29	25	9	58	75	79	90	127	132	151	196	136
明日香村	46	103	97	42	85	72	96	102	153	108	75	128	81
上牧町				3	1	1		1	5		1	11	4
王寺町			2	7	1	3	1	13	19	19	18	39	21
広陵町				3	3	1	3		2		2	2	1
河合町				4	2	1	1	1	2			3	2
吉野町	69	145	74	175	138	206	148	138	149	105	129	127	51
大淀町	33	91	24	20	132	342	224	366	464	278	211	267	169
下市町	127	180	125	195	275	291	467	446	865	554	609	756	252
黒滝村	20	39	21	11	10	41	59	17	24	21	9	11	4
天川村	36	28	14	17	14	30	53	87	110	86	65	70	19
野迫川村	46	57	21	20	15	45	28	36	26	40	49	12	1
十津川村	328	516	311	254	463	581	543	535	460	665	666	512	133
下北山村	34	61	41	53	27	39	45	35	32	30	32	45	29
上北山村	61	57	29	53	34	57	35	59	36	34	28	24	7
川上村	57	86	74	69	116	67	51	39	72	35	64	76	43
東吉野村	15	72	14	40	11	45	22	15	27	15	21	23	2
合計	2,775	4,561	2,769	3,293	4,210	7,221	6,613	7,607	9,325	8,838	7,239	8,467	2,957

表1 市町村別捕獲数は市町村毎に報告される有害捕獲数と、狩猟者から報告される捕獲数(5×5kmメッシュ区域での捕獲位置が報告される)を捕獲位置に含まれる市町村毎の面積で按分して市町村毎に集計したものの合計であり、正確な値ではない場合がある(例:森林のほとんどない大和高田市、安堵町、田原本町など)。

県内におけるイノシシの年間捕獲数は年次で増減しつつ、1990年代までは1,500頭前後を推移してきた。平成23年(2011年)度に紀伊半島大水害による影響で一時的な減少はあったものの、2010年代半ば以降においては有害捕獲の増加等により6,000頭を超える捕獲数となっている。平成29年(2017年)度の年間捕獲数は過去最高の9,325頭、うち有害捕獲数は6,388頭となった。これは平成19年(2007年)度以降、県が新規狩猟免許取得者の増加を目的に実施してきた狩猟担い手確保・育成事業やその他国庫等による捕獲促進事業の効果により、農林業者が自ら農地・林地を守るために、特にわな猟免許を取得して地域ぐるみでの有害捕獲が実施されることによると考えられる。

令和3年(2021年)度の捕獲数については、令和2年(2020年)10月に県内で初めて発生を確認した豚熱の影響とみられる個体数の減に伴い、前年度から大幅に減少した。

イノシシは産仔数が多く、個体数の回復が早いことから、継続的に強い捕獲圧をかける必要がある。県内に在住する新規免許取得者数は平成27年(2015年)を境に減少傾向にあったが、令和元年(2019年)度から増加し、近年は毎年200名程度が新規に免許を取得している。狩猟者登録数は増加傾向にあり、今後も捕獲従事者を確保する事業を継続していく必要がある。

3. 被害状況調査

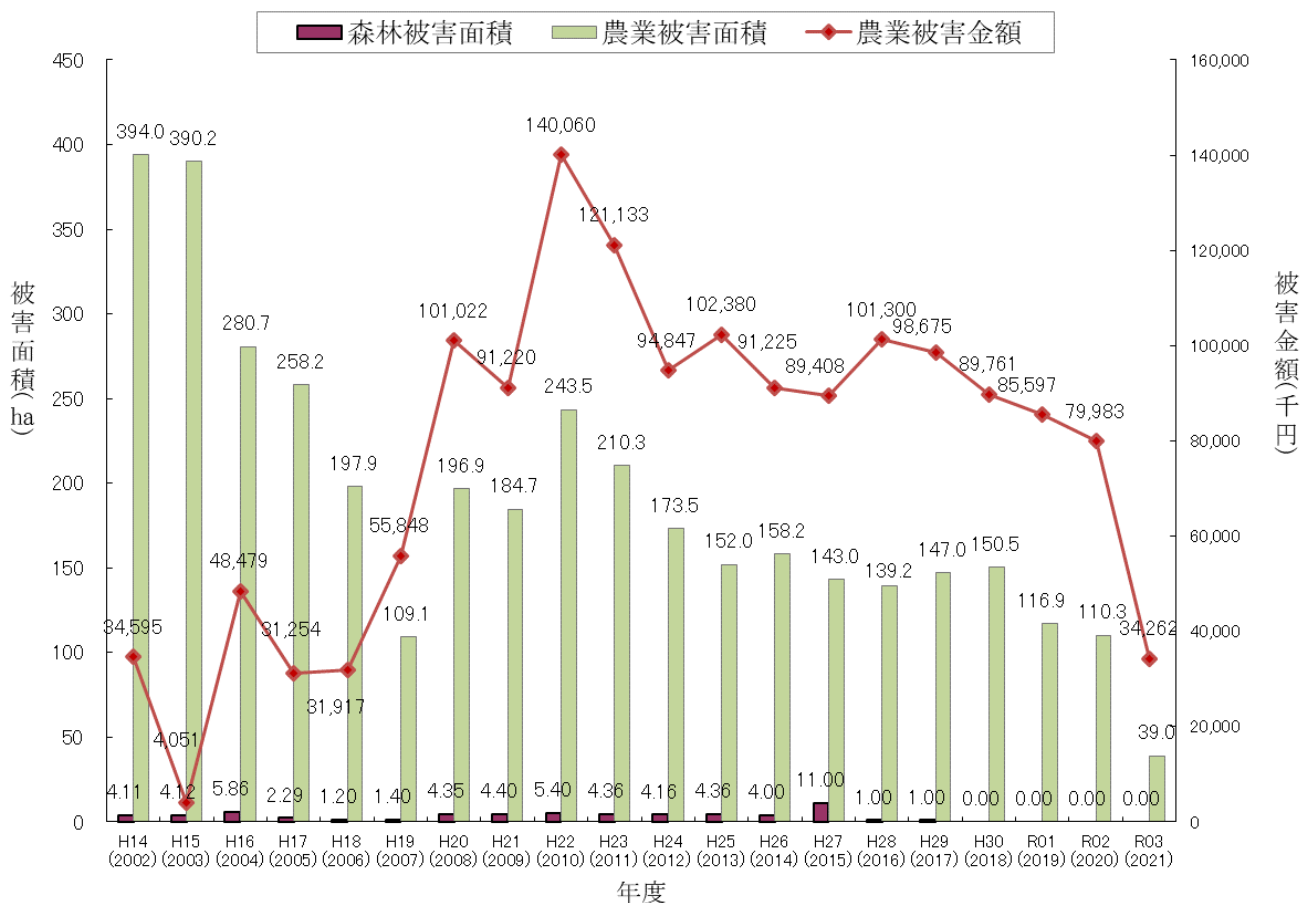


図6 イノシシ被害の経年変化

被害種別(面積・金額)の経年変化を図6に示す。農業被害については、面積は平成23年(2011年)度以降は減少傾向にあったが、近年は横ばいの状況が続いていた。しかしながら令和3年(2021年)度は豚熱の影響とみられる加害個体の減少により、被害面積は110.3haから39haへと激減している。

金額は、平成15年(2003年)度以降増加傾向となり、平成22年(2010年)度には過去最高の140,060千円となったが、平成23年(2011年)度以降は1億円前後で推移しており、令和2年(2020年)度までに79,983千円にまで減少していたが、令和3年(2021年)度は面積と同様に34,262千円にまで激減した。

また、林業被害については、平成27年(2015年)度の11haを除き、5ha前後で推移していたが、平成28年(2016年)度以降は1ha以下と少ない状況で推移している。

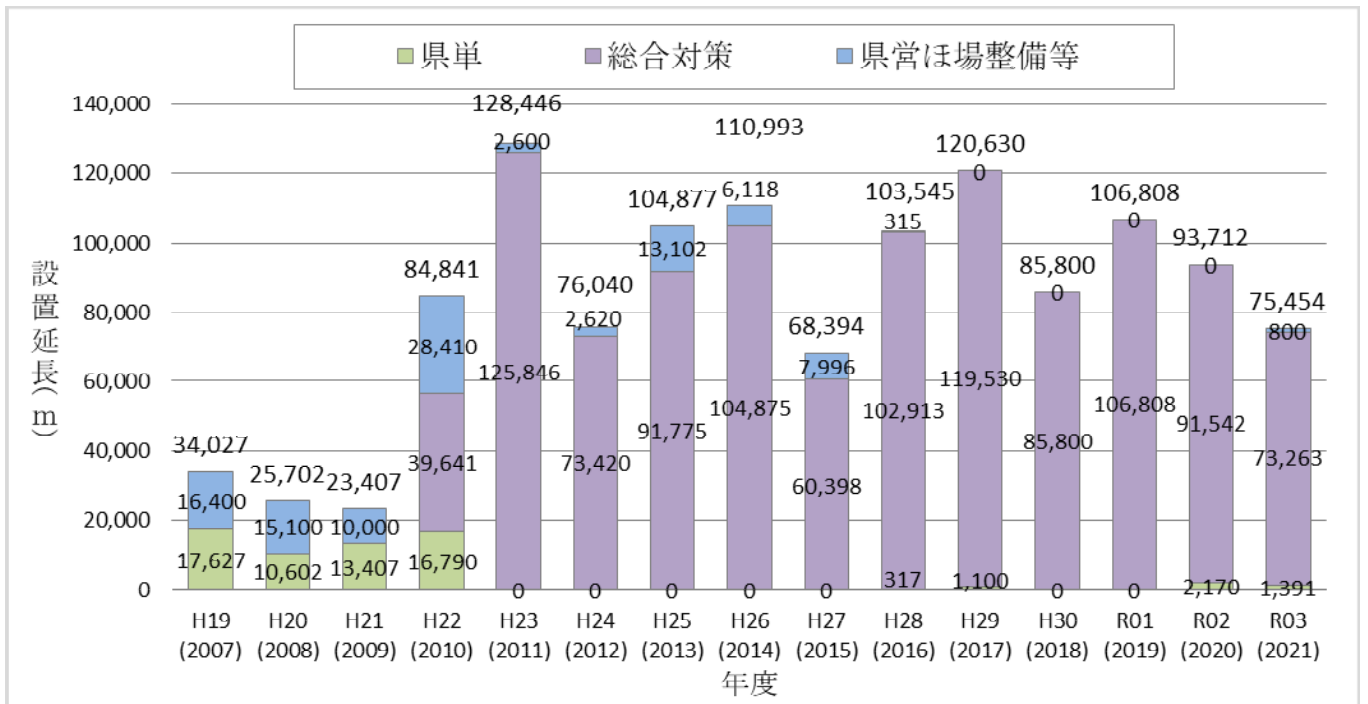


図7 イノシシ被害対策の経年変化(補助事業別)

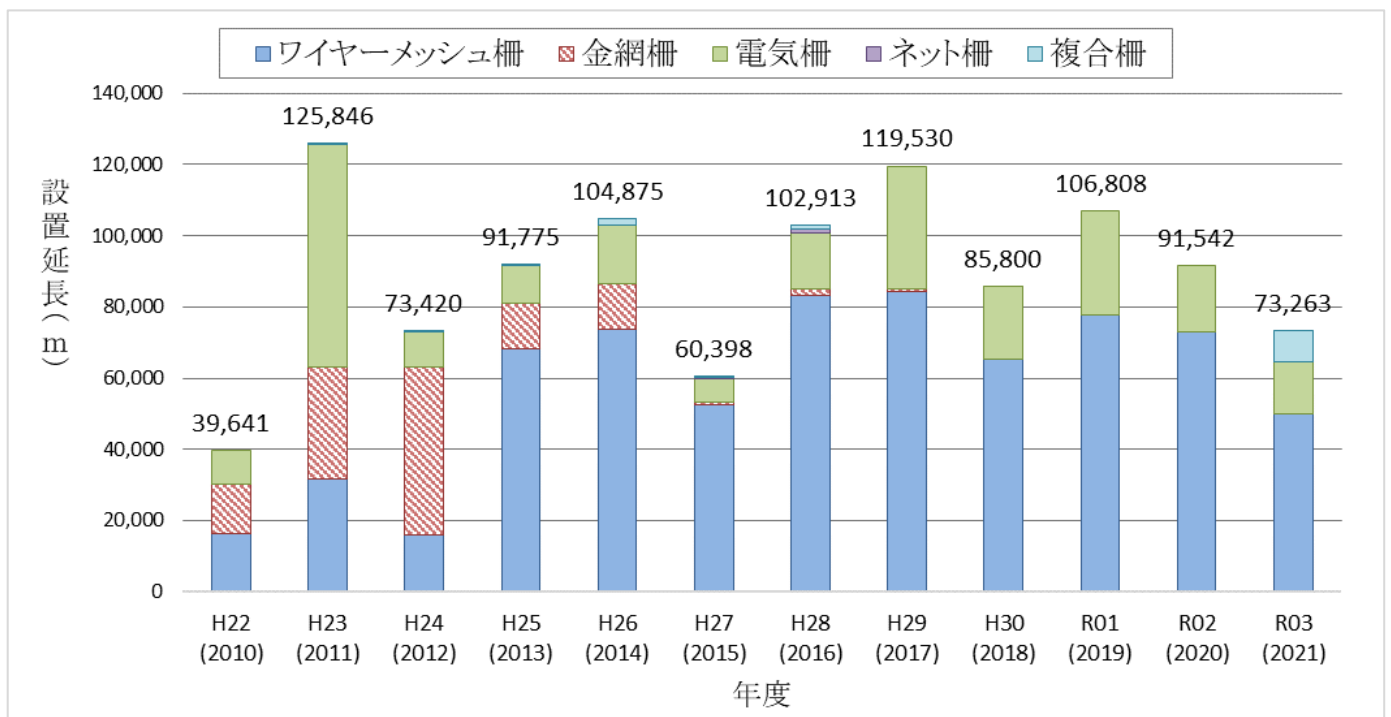


図8 総合対策交付金によるイノシシ被害対策の経年変化(柵の種類別)

(※ 複合柵はイノシシ用ワイヤーメッシュ柵または金網柵とニホンザル用電気柵を併用したもの)

図7・図8は、平成19年(2007年)度以降の県に関連する補助事業で実施した、ワイヤーメッシュ柵・金網柵・電気柵等の侵入防止柵の設置延長の年度別実績および総合対策交付金の制度が開始された平成22年(2010年)度以降の交付金で設置された柵の種類内訳の年度別実績を示す。平成21年(2009年)度までは主に県単独事業により年間約23,000~34,000mを設置していたが、平成22年(2010年)度以降は総合対策交付金を導入し、令和3年(2021年)度は合計約75,000mの設置となった。

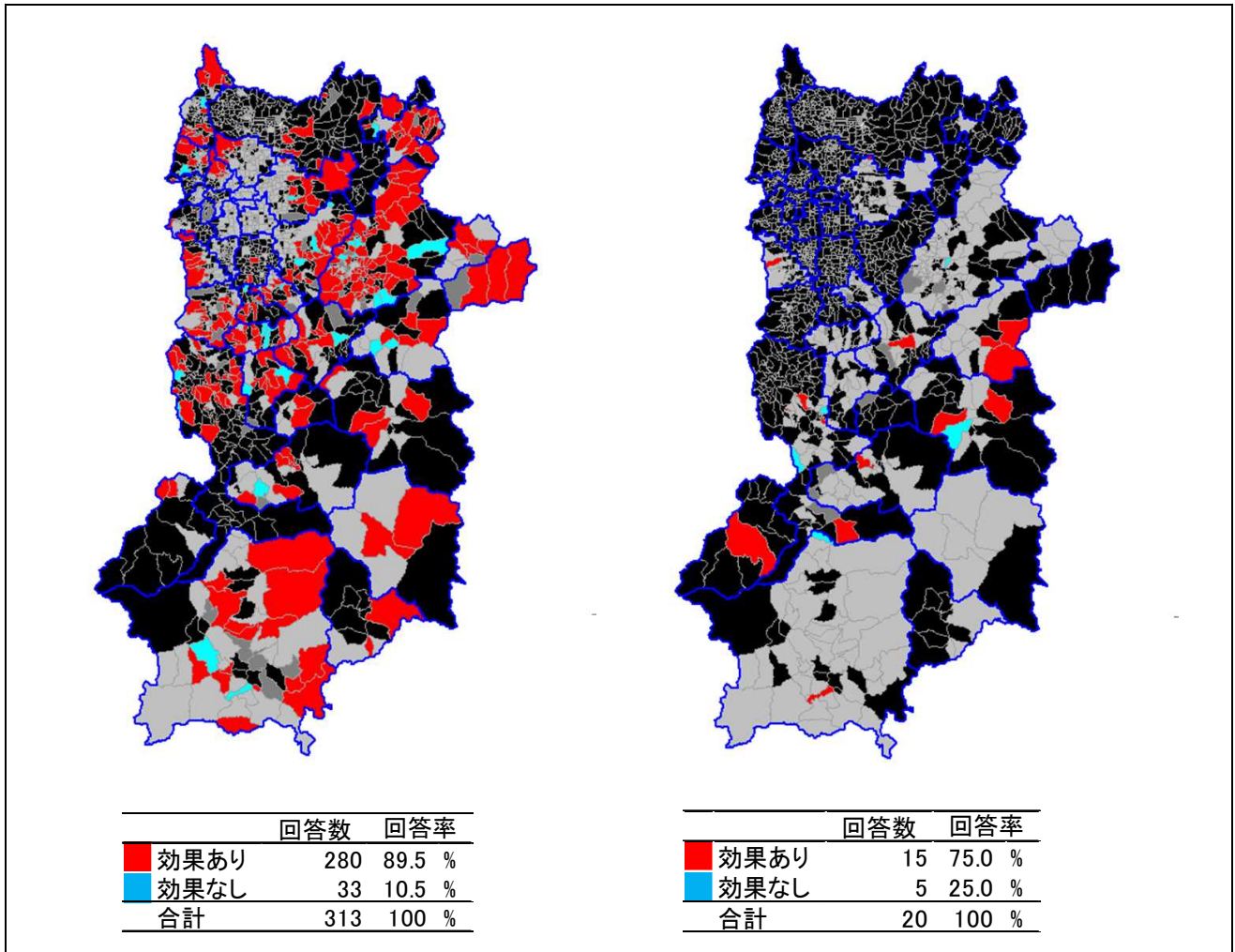


図9 令和3年(2021年)度のイノシシの被害対策 防護柵(侵入防止柵)の効果 (左:農業/右:林業)

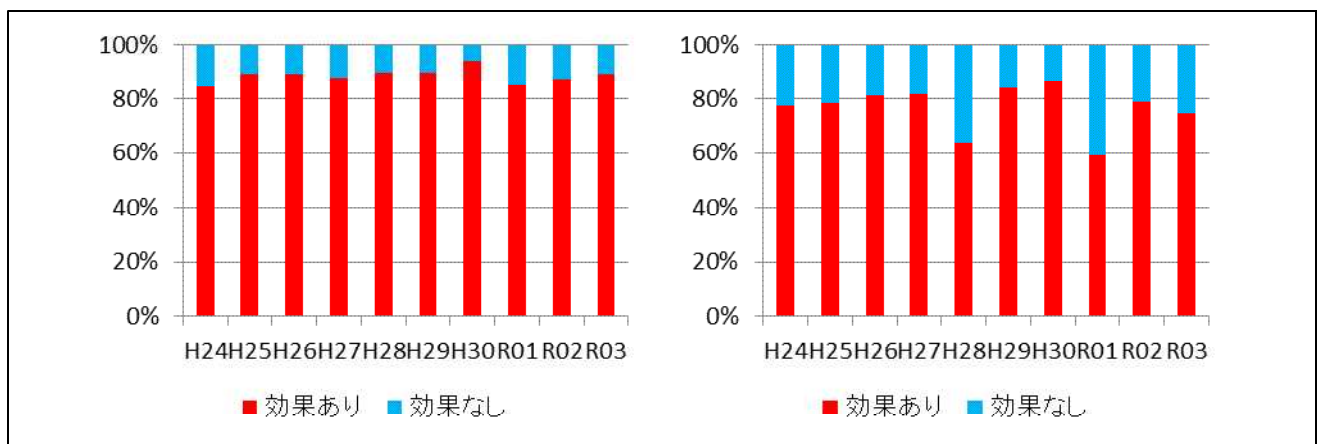


図10 各年度の防護柵(侵入防止柵)の効果 (左:農業/右:林業)

図9・図10は農業・林業集落アンケート調査による、被害対策での防護柵(侵入防止柵)の効果の意識調査の結果である。農業、林業いずれも効果があったとの回答が多く、防護柵を設置することの被害防止効果は高いことがわかる。林業では効果があったとの回答が農業より少ないが、これは農業は居住地や人家周辺で営まれることが多く、効果が目につきやすいため、また、防護柵の効果を最大限発揮させるために見回り・メンテナンスによる破損の防止が重要となるが、山林・奥地森林では頻繁に見回り・メンテナンスができず、破損が生じた場合にイノシシの侵入を許すことが農地よりも多いためと考えられる。

防護柵設置に対する補助については要望が多く、資材によっては耐用年数を迎えるものも多くなることが予想されるため、今後も多くの防護柵が設置されると考えられる。効果的な防護柵の設置、適切な維持管理を今まで以上に普及していく必要がある。

4. 農業・林業集落アンケート調査(獣害アンケート調査)

○イノシシの分布

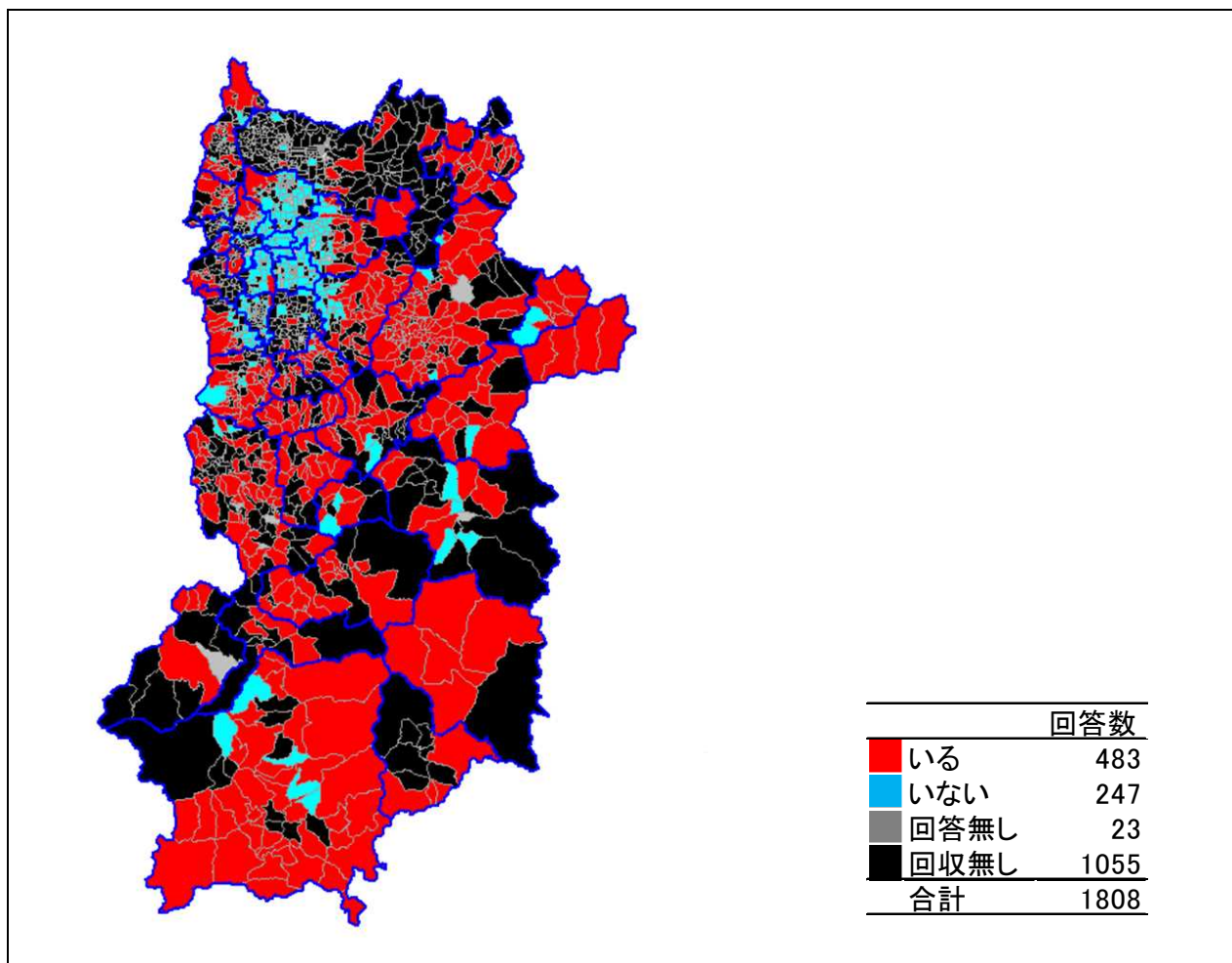


図11 令和3年(2021年)度のイノシシの分布
 青線:市町村界 / 市町村界内側の線:大字・地区界 (※以降の図についても同様である。)

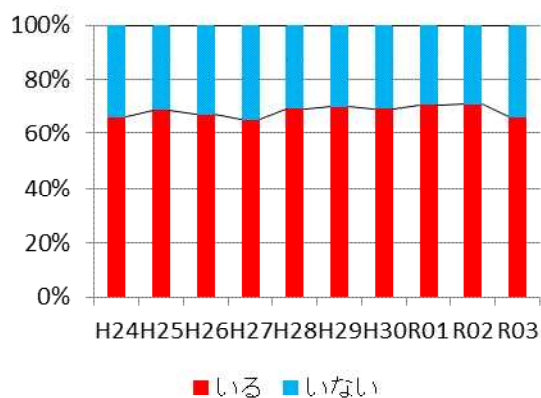


図12 イノシシの分布の経年変化

図11・図12は集落アンケート調査によるイノシシの分布調査の結果である。農業集落と林業集落の両方またはいずれかでイノシシが「いる」と回答があった場合に「いる」としており、「回収無し」には人が住んでいない集落も含まれる。

県北西部の平野部を除き、広い地域でイノシシが「いる」という回答があった。

イノシシが「いる」という回答は平成24年(2012年)度の約66%から令和2年(2020年)度の約71%まで緩やかに増加傾向であったが、令和3年(2021年)度は約66%と減少した。豚熱の影響により県内において分布が縮小したと考えられる。

(※以降の項目については、イノシシが「いる」と回答があり、かつ各設問の回答があった集落の内訳を示す。)

○イノシシの出没状況

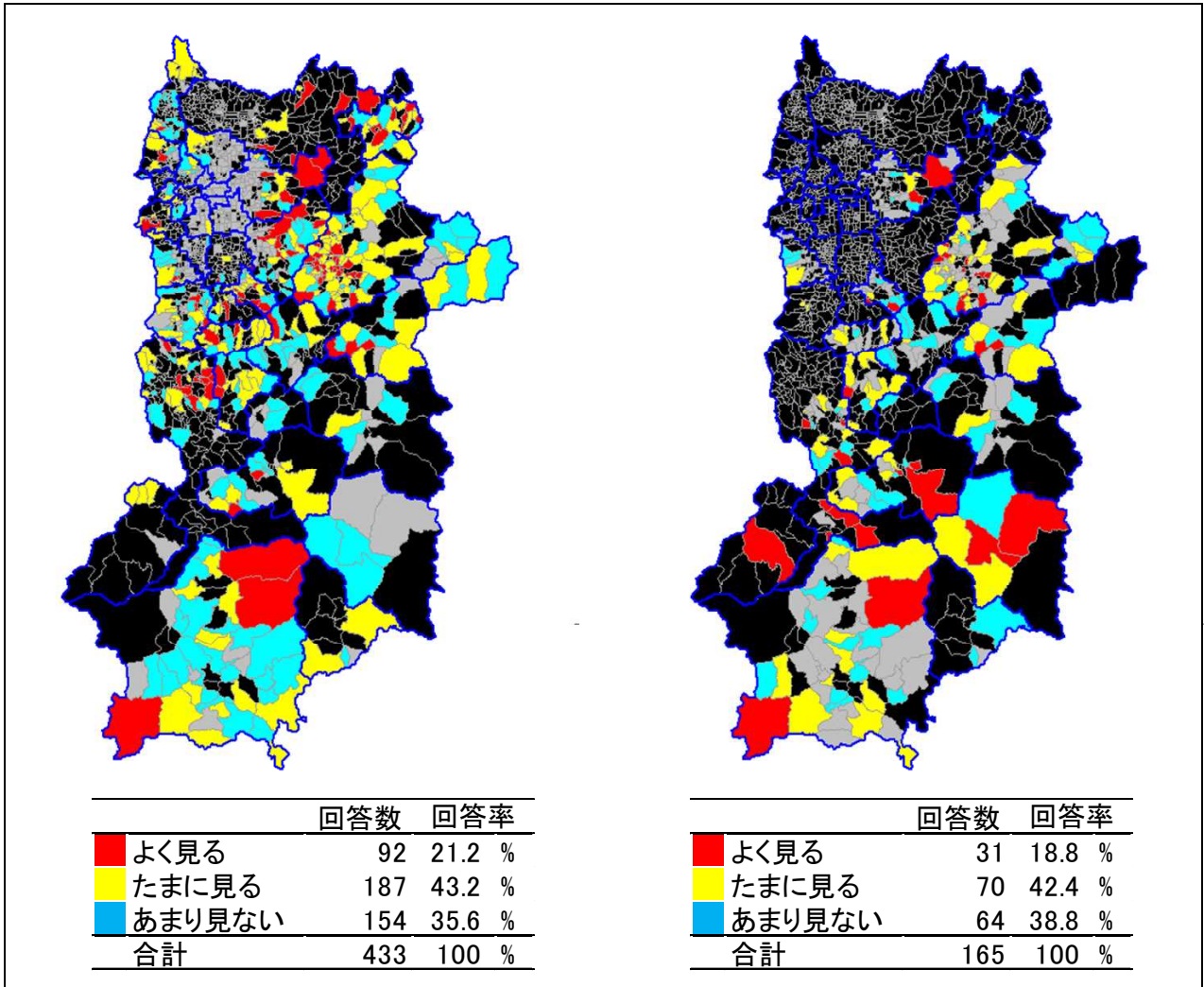


図13 令和3年(2021年)度のイノシシの出没状況 (左:農業/右:林業)

図13は農林業集落での出没状況調査の結果である。

農地・集落周辺への出没は、県北部から県中部、県南部にかけて多い傾向にある。また県北西部で多い地域も見られる。

山地・奥地森林での出没は、県中部地域の一部と県南部にかけて多い傾向にある。

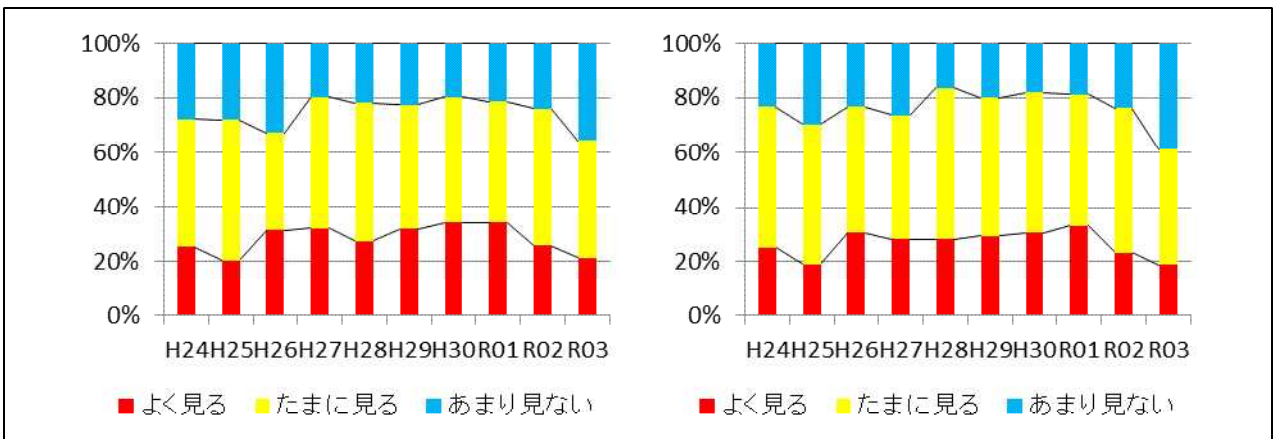


図14 出没状況の各回答の占有率の経年変化(左:農地・集落周辺/右:山林・奥地森林)

図14は各回答の占有率の経年変化を示したものである。

イノシシを「たまに見る」または「よく見る」の回答が、農地・集落周辺と山林・奥地森林のいずれも令和元年(2019年)度から令和3年(2021年)度にかけて減少傾向にある。

○イノシシによる農林業被害の大きさ

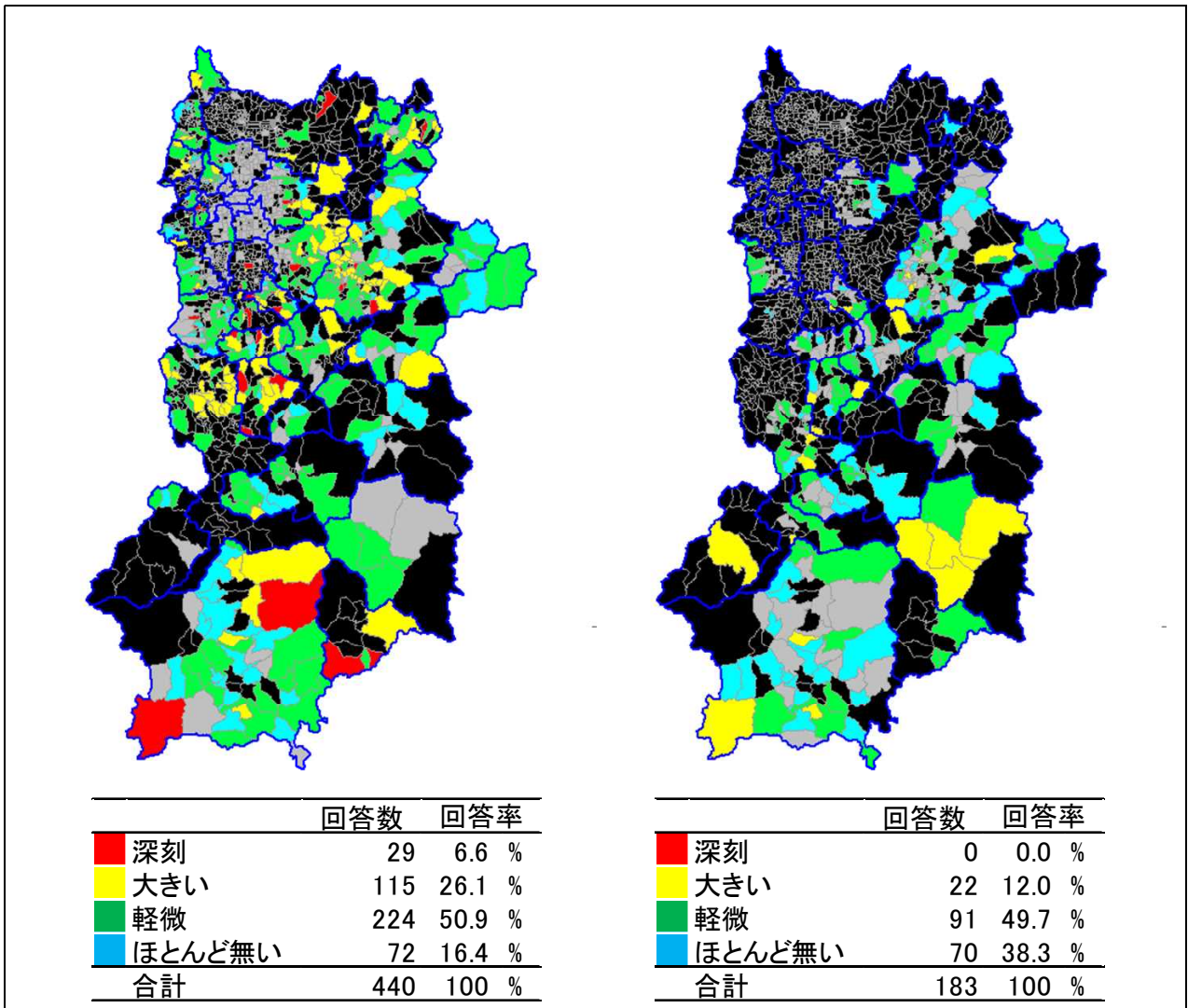


図15 令和3年(2021年)度のイノシシによる農林業被害の大きさ (左:農業/右:林業)

図15は農林業被害の大きさの意識調査の結果である。

被害が「大きい」または「深刻」の回答が、農業で約33%、林業で約12%となり、農業に関してはイノシシによる被害意識は大きいことがわかる。「軽微」の回答も含めると約84%となり、広い地域でイノシシによる農業被害が認識されていることがわかる。

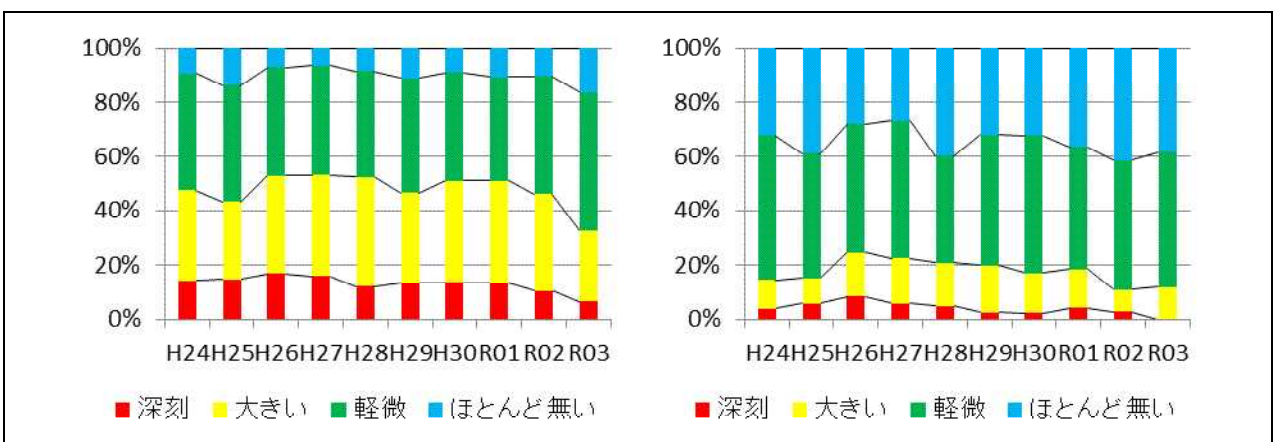


図16 被害程度の各回答の占有率の経年変化 (左:農業/右:林業)

図16は各回答の占有率の経年変化を示したものである。

被害が「大きい」または「深刻」の回答が、農業で令和3年(2021年)度は令和2年(2020年)度から減少した。

○イノシシによる農林業被害の増減

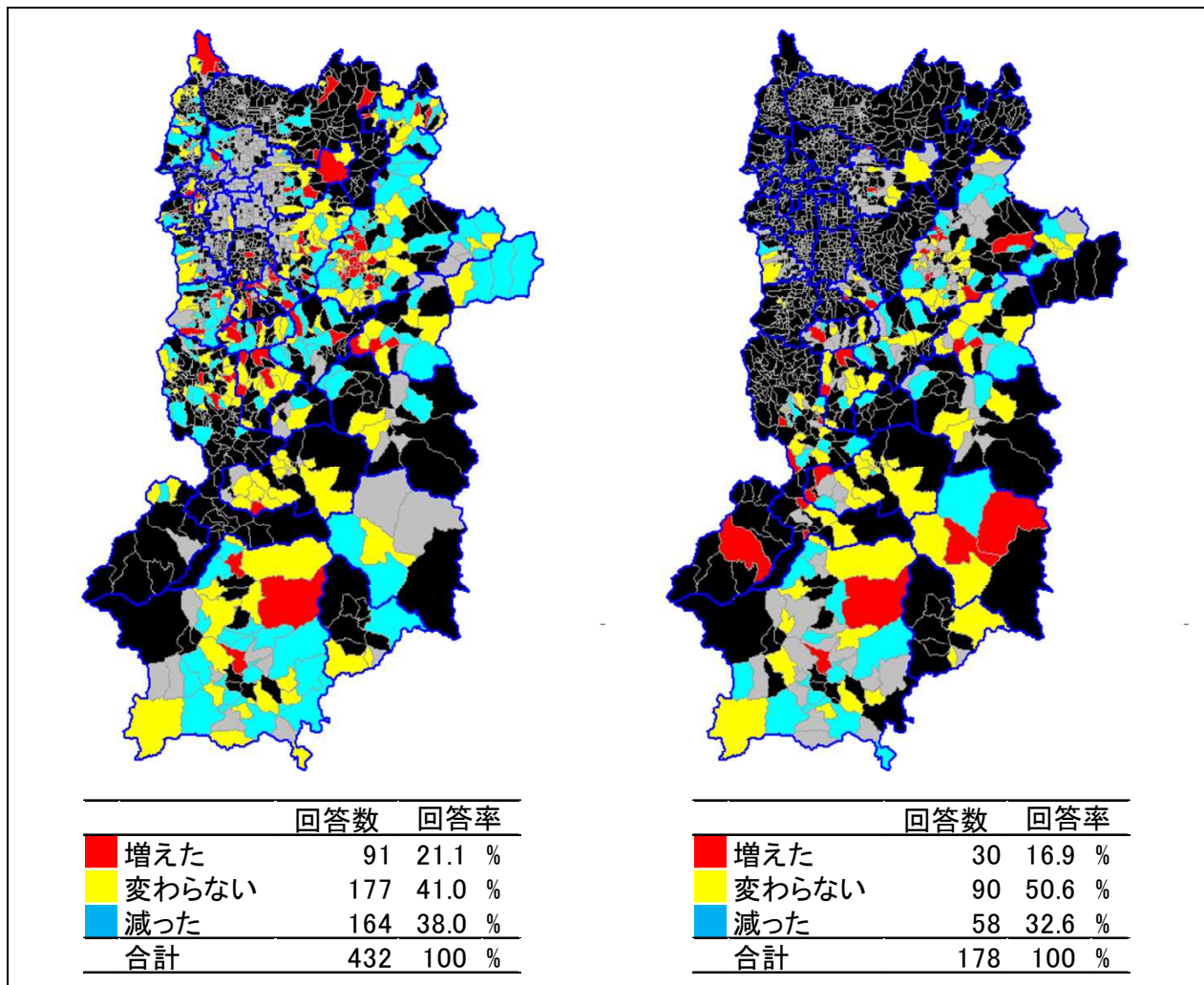


図17 令和3年(2021年)度のイノシシによる農林業被害の増減 (左:農業/右:林業)

図17は前年と比較した農林業被害の増減の意識調査の結果である。

農業被害が前年と比べて「増えた」という回答が約21%であるのに対し、「減った」という回答は約38%と、被害が減少したと認識する地域の方が多いことがわかる。林業被害でも、「増えた」という回答が約17%であるのに対し、「減った」という回答は約33%と農業と同様の傾向がみられた。

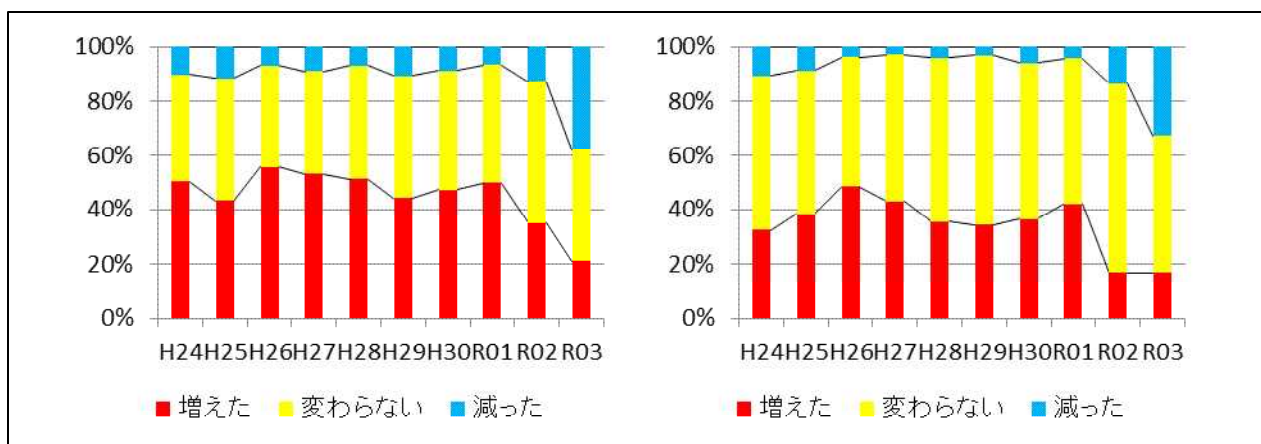


図18 被害の増減の各回答の占有率の経年変化 (左:農業/右:林業)

図18は各回答の占有率の経年変化を示したものである。

農林業被害ともに令和元年(2019年)度から令和3年(2021年)度にかけて「減った」という回答が増加傾向にある。

○イノシシの出没動向(平成29～令和3年度/2017～2021年度の5年間)

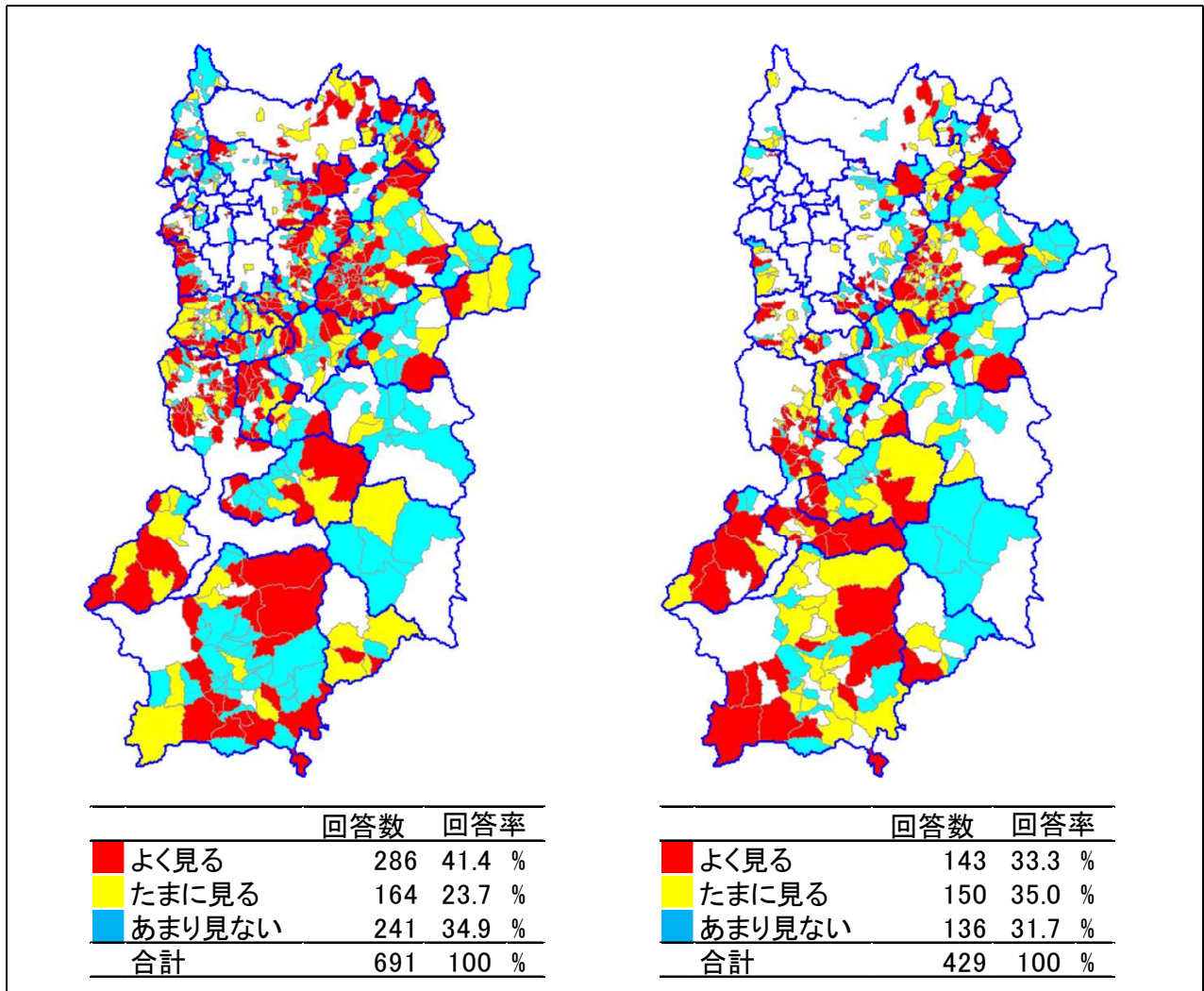


図19 イノシシの出没動向(左:農地・集落周辺/右:山林・奥地森林)

図19はイノシシの農地・集落周辺と山林・奥地森林への出没の5年間の動向である。

各回答を「よく見る」+1、「たまに見る」±0、「あまり見ない」-1とポイント化して集落毎に合計し、プラスになる場合(「よく見る」が多い場合)は赤色、0になる場合(「たまに見る」になる場合)は黄色、マイナスになる場合(「あまり見ない」が多い場合)は青色で各集落を色分けした。5年間で1度でも回答があった場合を集計している。空白は調査した5年間、イノシシがいない、無回答、集落に人が住んでいないのいずれかである。

農地・集落周辺への出没は、県北東部から県中部、県南西部にかけて多い傾向にある。また県北西部で多い地域も見られる。一方で県南東部では少ない傾向にある。

山林・奥地森林での出没は、農地・集落周辺と同様に、県北東部から県中部、県南西部にかけて多い傾向にある。一方で県南東部では少ない傾向にある。

○イノシシによる農林業被害意識の動向(平成29～令和3年度/2017～2021年度の5年間)

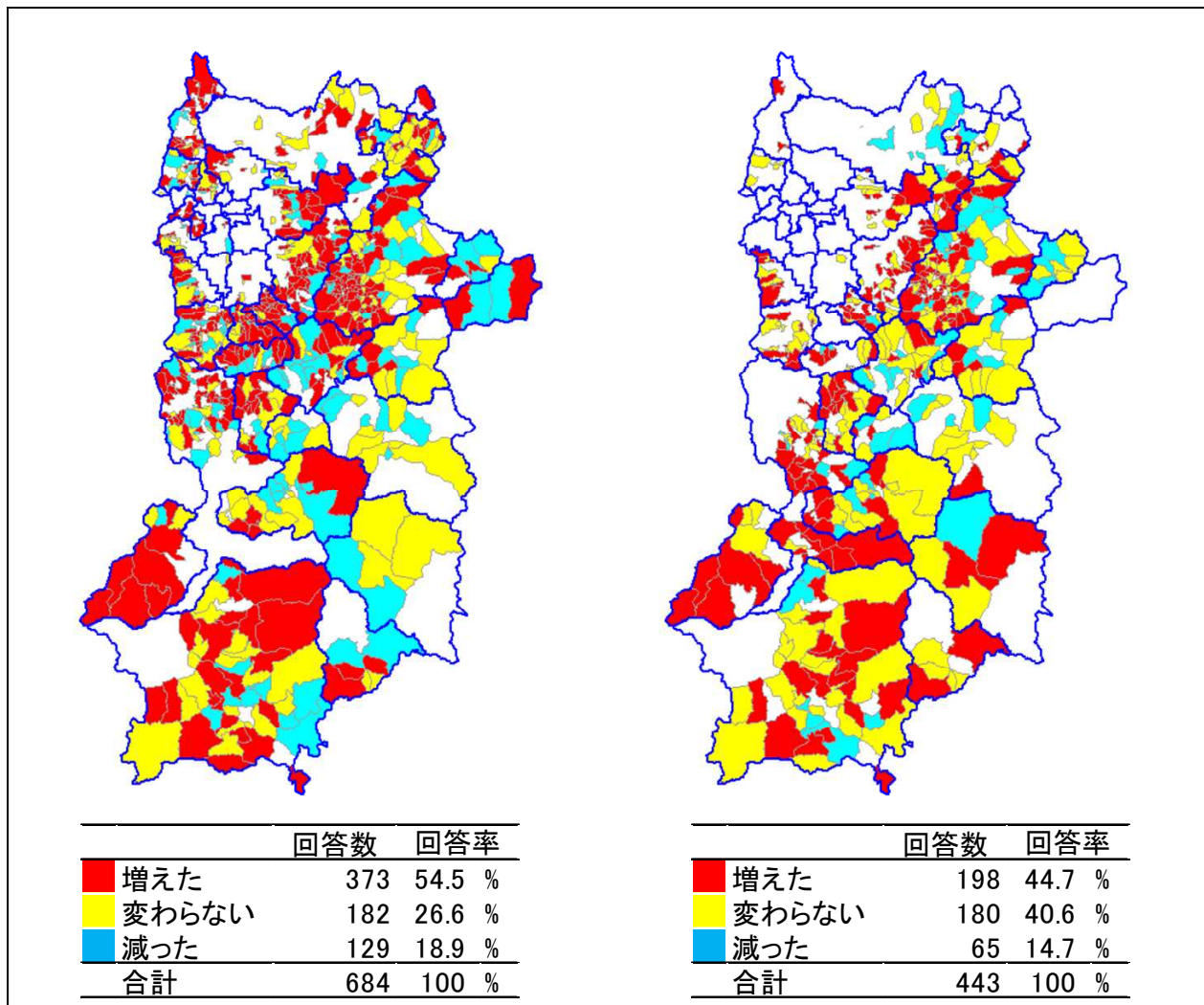


図20 イノシシによる農林業被害意識の動向(左:農業/右:林業)

図20はイノシシによる農林業被害の意識の5年間の動向である。

各回答を「増えた」+1、「変わらない」±0、「減った」-1とポイント化して集落毎に合計し、プラスになる場合(「増えた」場合)は赤色、0になる場合(「変わらない」場合)は黄色、マイナスになる場合(「減った」場合)は青色で各集落を色分けした。5年間で1度でも回答があった場合を集計している。空白は調査した5年間、イノシシがない、回答がない、集落に人が住んでいないのいずれかである。

イノシシによる農業被害の意識は、県南東部では変わらないという回答が多いものの、県全体から依然として被害は増えていると回答があり、回答を得た集落のうち約55%が増えているという意識となっていた。

イノシシによる林業被害の意識は、県北東部から県中部、県南西部にかけて被害が増えたという回答が多く、県全体では回答を得た集落のうち約45%で増えているという意識となった。

5. 令和4年(2022年)度奈良県イノシシモニタリング調査結果報告まとめ

1. 生息動向

- ・出猟カレンダーによる目撃効率・捕獲効率は、一部地域では高い地域があるものの、これまでとは異なり豚熱の影響を受け、県のほぼ全域で大幅な低下が見られた。
- ・農業・林業集落アンケート調査では、これまでと同様に市街地を除く広い範囲でイノシシが分布している。
- ・農地・集落周辺への出没は、県北部から県中部、県南部にかけて多い傾向にある。一方で県東部や県南東部等では少ない傾向にある。なお、今回の調査では、「よく見る」、「たまに見る」と回答した集落が前年より減少し、「あまり見ない」と回答した集落が増加した。
山林・奥地森林での出没は、農地・集落周辺と同様に、県中部地域の一部と県南部にかけて多い傾向にある。一方で県北部や県東部等では少ない傾向にある。
- ・以上、豚熱の影響により令和2年(2020年)度以前と比較すると、目撃効率・捕獲効率並びに出没状況のいずれの値も低下傾向が見られ、県の広い範囲で個体数が減少していることが示唆された。

2. 捕獲数

- ・令和3年(2021年)度の狩猟捕獲数・有害捕獲数の合計は2,957頭であった。令和2年(2020年)度の8,467頭から約5,500頭減少し、年間捕獲目標としている9,500頭の約1/3であった。
- ・令和3年(2021年)度の狩猟における捕獲数は781頭となった。狩猟期間を延長した平成20年(2008年)度以降では最小の数値である。
- ・銃猟、わな猟のいずれの捕獲効率(県全体)も銃猟では前年の0.05から0.02、わな猟では0.12から0.05に大幅に減少しており、個体数の減少に伴う低下であると考えられる。しかしながら今後、時間の経過と共にイノシシの個体数も回復することが考えられることから、引き続き、適正な個体数水準を維持するため、捕獲圧を維持し続ける必要がある。そのため継続してわなの設置技術や大量捕獲技術についての普及を図るとともに、箱わなの捕獲効率を維持する誘引手法や、くくりわなの効率的な捕獲方法についても検討する必要がある。
- ・令和3年(2021年)度の有害捕獲による捕獲数は2,176頭となった。平成19年(2007年)度以降、県が取り組んできた農林業者等のわな猟免許取得促進事業や、国庫事業などの捕獲促進事業などの効果により平成28年(2016年)度以降、毎年5,000頭以上の実績があったが、こちらも豚熱の影響による個体数の減少に伴い、捕獲頭数が著しく減少したものと推察される。

3. 被害状況

- ・市町村からの報告による農業被害について、被害面積は平成23年(2011年)度以降は減少傾向にあったが、近年は横ばいの状況が続いていた。しかしながら、令和3年(2021年)度の被害面積は豚熱の影響による加害個体の減少により前年の110.3haから39haに激減している。また、被害金額も被害面積と同様に令和2年(2020年)度の79,983千円から令和3年(2021年)度は34,262千円に激減している。
- ・林業統計による森林被害面積は少なく、平成27年(2015年)度の11haを除き、5ha前後で推移していたが、平成28年(2016年)度以降は1ha以下と少ない状況で推移している。
- ・農業・林業集落アンケート調査では、これまでと同様に、農業被害では広範囲の非常に多くの集落で一定以上の被害が発生していることが確認された。ただ農業被害の大きさについては、「深刻」、「大きい」と回答した地域が前年より減少し、「軽微」、「ほとんど無い」と回答した地域が増加した。加えて農業被害が減ったと回答した地域も前年の12.8%から38.0%へ大幅に増加しており、豚熱の影響による加害個体の減少が被害の減少に結びついているものと推察される。
- ・被害対策の防護柵(侵入防止柵)の設置延長は、国庫補助事業の総合対策が導入された平成22年(2010年)度以降は急増し、令和3年(2021年)度は合計約75,000mの設置となった。

4. まとめ

令和3年(2021年)度のイノシシ捕獲数は、豚熱の影響による個体数の減により、前年度を大きく下回ったほか、被害面積、被害金額も大きく低下した。しかしながら今後、時間の経過と共にイノシシの個体数も回復することが考えられることから、引き続き、高い捕獲圧をかけ続けて生息数を低く維持する必要があり、そのための事業を継続することが必要である。また、被害防止対策として市町村を中心に、地域ぐるみで取り組む「4本柱の活動」(「人材育成」「生息環境管理」「被害防除」「個体数調整」)を総合的に支援し、有効な地域ぐるみでの対策、防護柵(侵入防止柵)の効果的な設置、維持管理などの普及啓発を継続していく必要がある。

出猟カレンダー記入要領

1. 第一種銃猟用出猟カレンダー記入要領

- * シカ、イノシシ両方の調査です。
- * シカ・イノシシを捕獲しなくても、シカ猟・イノシシ猟に出猟したら必ず記入して下さい。
- * 記録は、1回の出猟(区域)ごとに記入し、1日に2区域に出猟した場合は2行に記入して下さい。
- * 捕獲数は、目撃数に含めて下さい。
- * 二人以上のグループで共猟した場合は、代表者のみ記入して下さい。
- * 共猟者数は、記入者本人を含んだ人数です。
- * シカのツノの形状は下の「シカの角参考図」の該当する番号を記入して下さい。
- * 一度の出猟で2頭以上捕獲した場合は、一行に全て記入して下さい。(記入例参照)

目撃や捕獲の有無にかかわらず、シカ・イノシシを目的とした出猟の都度ご記入をお願いします

記入者本人を含みます

(記入例)

出猟回数	出猟月日	捕獲の有無	出猟区域		シカ						イノシシ		共猟者数	
					捕獲数		ツノの形状(オス)	目撃数(捕獲数含)			目撃数(捕獲数含)	捕獲数		
			オス	メス	オス	メス		不明	オス	メス				
1	11月24日	有・無	宇陀市室生	5136601	1	1	④	1	3	1				2
2	12月19日	有・無	宇陀市室生	5136604	2	1	④⑤	2	3					8
3	2月 2日	有・無	奈良市萩	5135774				1	1		2	1		3
4	2月 2日	有・無	宇陀市榛原	5136513					2		1			2

シカの角参考図



①なし



②1尖



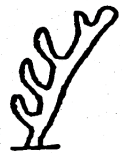
③1又2尖



④2又3尖



⑤3又4尖



⑥4又5尖

2. わな猟用出猟カレンダー記入要領

- * シカ、イノシシ両方の調査です。
- * わなを設置した場合は、捕獲の有無にかかわらず、全て記入して下さい。捕獲の情報だけでなく、設置されているわなの数を知るためです。
- * 2つ以上の地域(メッシュ)にわなを設置した場合は、それぞれの地域(メッシュ)ごとに行を変えて、日付、地域(メッシュ)、捕獲数などを記入して下さい。
- * 2種類以上のわなを同じ地域(メッシュ)で使用した場合は、わなの種類ごとに行を変えて記入して下さい。
- * 同じ地域(メッシュ)でわなの設置数を変えた場合は、行を変えて記入して下さい
- * シカのツノの形状は下の「シカの角参考図」の該当する番号を記入して下さい。

わなを設置した場所ごとに記入して下さい

わなの設置期間中に見回した回数

見回り中に目撃したシカ、イノシシの数(捕獲数も含む)

わなの設置記録

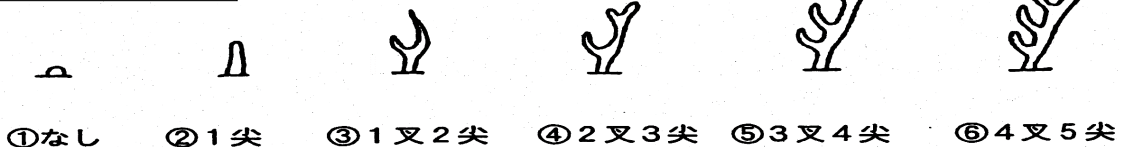
わなの設置区		わなを設置していた期間		わなの設置数			見回り回数	シカ目撃数(捕獲数も含む)			イノシシ目撃数(捕獲数も含む)
市町村・地区大字名	メッシュ番号	開始日	終了日	くりわな	箱わな	囲いわな		オス	メス	不明	
宇陀市室生	5136604	11月16日	11月30日	10			14	3	4		1
宇陀市室生	5136604	11月30日	12月15日	5			15		1		2
宇陀市榛原	5136601	11月16日	2月16日		1		95	7	10	2	20

捕獲した日・場所ごとに記入して下さい

捕獲の記録

捕獲日	捕獲場所		シカ捕獲数						シカのツノの(オ形スツノの)	イノシシ捕獲数					
	市町村・地区大字名	メッシュ番号	くりわな		箱わな		囲いわな			くりわな		箱わな		囲いわな	
			オス	メス	オス	メス	オス	メス		オス	メス	オス	メス		
11月19日	宇陀市室生	5136604		1											
11月19日	宇陀市榛原	5136601									1				
11月20日	宇陀市室生	5136604							1						
11月23日	宇陀市室生	5136604	1	2				③							
11月23日	宇陀市榛原	5136601										1			
11月30日	宇陀市榛原	5136601									1				
12月2日	宇陀市榛原	5136601											1		
12月10日	宇陀市榛原	5136601				1		②							

シカの角参考図



農業用

電話番号

今後農業を続けていくのに農産物問題は
最も重要な問題 重要でない 特別に課題はない
他の課題の方が重要 特に課題はない
 他の重要な課題は()

令和3年度の集り
 クリ (農作) 年並並(農作・平明・栽培なし)
 カキ (農作) 年並並(農作・平明・栽培なし)

設置 防獣柵 ネット柵
あり なし あり なし
 シカ・イノシシ・サル・アラウガマ・熊()
あり なし あり なし
 シカ・イノシシ・サル・アラウガマ・熊()
あり なし あり なし
 シカ・イノシシ・サル・アラウガマ・熊()
あり なし あり なし
 シカ・イノシシ・サル・アラウガマ・熊()

主な設置者
個人 集落 個人 集落
個人 集落 個人 集落
個人 集落 個人 集落
個人 集落 個人 集落

設置している割合
 農産物のおよそ 5.0 %を囲っている
 農産物のおよそ 3.0 %を囲っている
 農産物のおよそ 2.0 %を囲っている

ヤマビルについて教えてください
 農作業・土手の刈刈等でヤマビルは？
いらない 増減なし・変わらず
増えた 減った
増減なし・変わらず わからぬ

対象動物	令和3年度の農産被害	販路額に対する農産被害額	主な被害作物(いくつでも)	被害の増減	令和3年度の動物の増減	令和3年度の周辺	令和3年度の被害対策とその効果(5年程度)	その他お気づきの点や工夫など ご自由にお書き下さい
シカ <input checked="" type="checkbox"/> いる →(右は記入不要) →(右は記入不要)	農産被害は <input type="checkbox"/> ほとんどない <input type="checkbox"/> 軽微 <input checked="" type="checkbox"/> 大きい(生産量の30%未満) →(右は記入不要)	販売額(JA直売所など)のおよそ(2.5)% 自家用(家庭菜園、家庭菜園など)のおよそ(2.0)%	<input type="checkbox"/> 水稲 <input checked="" type="checkbox"/> 野菜 <input type="checkbox"/> 果樹 <input type="checkbox"/> 家庭菜園 <input type="checkbox"/> その他	令和2年度より <input type="checkbox"/> 増えた <input checked="" type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減った	令和2年度より <input type="checkbox"/> 増えた <input checked="" type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減った	農地・集落の周辺で <input checked="" type="checkbox"/> よく見る <input type="checkbox"/> たまに見る <input type="checkbox"/> あまり見ない	実施した被害対策とその効果(5年程度) 防獣柵についてはこれまでに設置したものを含みます (効果は) あった ・ なかった ・ 不明 (効果は) 追い払い (効果は) あった ・ なかった ・ 不明 (効果は) 防護柵 (効果は) あった ・ なかった ・ 不明 (効果は) 有害捕獲 (効果は) あった ・ なかった ・ 不明 (効果は) その他 (効果は) あった ・ なかった ・ 不明 (効果は) 何もなかった	
イノシシ <input checked="" type="checkbox"/> いる <input type="checkbox"/> いない →(右は記入不要)	農産被害は <input type="checkbox"/> ほとんどない <input type="checkbox"/> 軽微 <input checked="" type="checkbox"/> 大きい(生産量の30%未満) →(右は記入不要)	販売額(JA直売所など)のおよそ(1.7)% 自家用(家庭菜園、家庭菜園など)のおよそ(9)%	<input type="checkbox"/> 水稲 <input type="checkbox"/> 野菜 <input type="checkbox"/> 果樹 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭菜園 <input type="checkbox"/> その他	令和2年度より <input type="checkbox"/> 増えた <input checked="" type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減った	令和2年度より <input type="checkbox"/> 増えた <input checked="" type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減った	農地・集落の周辺で <input type="checkbox"/> よく見る <input type="checkbox"/> たまに見る <input checked="" type="checkbox"/> あまり見ない	実施した被害対策とその効果(5年程度) 防獣柵についてはこれまでに設置したものを含みます (効果は) あった ・ なかった ・ 不明 (効果は) 追い払い (効果は) あった ・ なかった ・ 不明 (効果は) 防護柵 (効果は) あった ・ なかった ・ 不明 (効果は) 有害捕獲 (効果は) あった ・ なかった ・ 不明 (効果は) その他 (効果は) あった ・ なかった ・ 不明 (効果は) 何もなかった	畦や土手の被害は <input type="checkbox"/> ほとんどない <input checked="" type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 大きい <input type="checkbox"/> 深刻 掘り返し跡は <input type="checkbox"/> よく見る <input checked="" type="checkbox"/> たまに見る <input type="checkbox"/> あまり見ない
サル <input type="checkbox"/> いる <input checked="" type="checkbox"/> いない →(右は記入不要)	農産被害は <input type="checkbox"/> ほとんどない <input type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 大きい(生産量の30%未満) →(右は記入不要)	販売額(JA直売所など)のおよそ()% 自家用(家庭菜園、家庭菜園など)のおよそ()%	<input type="checkbox"/> 水稲 <input type="checkbox"/> 野菜 <input type="checkbox"/> 果樹 <input type="checkbox"/> 家庭菜園 <input type="checkbox"/> その他	令和2年度より <input type="checkbox"/> 増えた <input checked="" type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減った	令和2年度より <input type="checkbox"/> 増えた <input checked="" type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減った	農地・集落の周辺で <input type="checkbox"/> よく見る <input type="checkbox"/> たまに見る <input type="checkbox"/> あまり見ない	実施した被害対策とその効果(5年程度) 防獣柵についてはこれまでに設置したものを含みます (効果は) あった ・ なかった ・ 不明 (効果は) 追い払い (効果は) あった ・ なかった ・ 不明 (効果は) 防護柵 (効果は) あった ・ なかった ・ 不明 (効果は) 有害捕獲 (効果は) あった ・ なかった ・ 不明 (効果は) その他 (効果は) あった ・ なかった ・ 不明 (効果は) 何もなかった	約 1.0頭・2.0頭・3.0頭・4.0頭・5.0頭以上 <input type="checkbox"/> 1~数頭のオスザルだけがいる <input type="checkbox"/> 尾の長いサルを写ったことがある(約2.0cm以上の尻尾) <input type="checkbox"/> 尾の長いサルは群れの中に何頭もいる <input type="checkbox"/> 住居侵入や器物破損 <input type="checkbox"/> 人を威嚇・襲う <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 家庭に住みつき糞尿などの衛生被害がある
アライグマ <input checked="" type="checkbox"/> いる →明/大/昭/平/令 年頃から <input type="checkbox"/> いない →(右は記入不要)	農産被害は <input type="checkbox"/> ほとんどない <input checked="" type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 大きい(生産量の30%未満) →(右は記入不要)	販売額(JA直売所など)のおよそ(1.8)% 自家用(家庭菜園、家庭菜園など)のおよそ(1.5)%	<input type="checkbox"/> 水稲 <input type="checkbox"/> 野菜 <input checked="" type="checkbox"/> 果樹 <input type="checkbox"/> 家庭菜園 <input type="checkbox"/> その他	令和2年度より <input type="checkbox"/> 増えた <input checked="" type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減った	令和2年度より <input type="checkbox"/> 増えた <input checked="" type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減った	農地・集落の周辺で <input type="checkbox"/> よく見る <input type="checkbox"/> たまに見る <input type="checkbox"/> あまり見ない	実施した被害対策とその効果(5年程度) 防獣柵についてはこれまでに設置したものを含みます (効果は) あった ・ なかった ・ 不明 (効果は) 追い払い (効果は) あった ・ なかった ・ 不明 (効果は) 防護柵 (効果は) あった ・ なかった ・ 不明 (効果は) 有害捕獲 (効果は) あった ・ なかった ・ 不明 (効果は) その他 (効果は) あった ・ なかった ・ 不明 (効果は) 何もなかった	約 1.0頭・2.0頭・3.0頭・4.0頭・5.0頭以上 <input type="checkbox"/> 1~数頭のオスザルだけがいる <input type="checkbox"/> 尾の長いサルを写ったことがある(約2.0cm以上の尻尾) <input type="checkbox"/> 尾の長いサルは群れの中に何頭もいる <input type="checkbox"/> 住居侵入や器物破損 <input type="checkbox"/> 人を威嚇・襲う <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 家庭に住みつき糞尿などの衛生被害がある

記入例

農産被害は「アライグマ・スズメ」については、おおよそ「の時期でもよいので、集落・農地で見られるようになった時期を記入して下さい」

裏面もありません
ご協力をお願いします

